



2024年9月18日

各位

会社名 鈴茂器工株式会社
代表者名 代表取締役社長 鈴木 美奈子
(コード番号：6405 東証スタンダード市場)
問合せ先 取締役 常務執行役員 越野 純子
(TEL. 03-3993-1396)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2024年5月13日付「2024年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」で公表いたしました2025年3月期第2四半期累計期間(2024年4月1日～2024年9月30日)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

(1) 2025年3月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(2024年4月1日～2024年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する中間純利益	1株当たり 中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	7,595	690	695	495	38.28
今回修正予想 (B)	7,850	900	942	695	53.73
増減額 (B-A)	255	210	247	200	—
増減率 (%)	3.4	30.4	35.5	40.4	—
(参考) 前期第2四半期実績 (2024年3月期第2四半期)	6,735	454	482	295	22.85

(2) 修正の理由

2025年3月期第2四半期累計期間の業績につきましては、当社の主要顧客である外食・小売業における機械化や省人化の動きは引き続き継続しており、製品需要は堅調に推移しております。

このような環境の下、国内は、原材料価格やエネルギー価格の高騰、人手不足の進行等により、外食・小売業にとっては厳しい事業環境は続いておりますが、外食需要の回復継続、インバウンド需要の拡大、人手不足を背景とした省人化の動きは継続し、製品需要は堅調に推移しております。製品・業態別では、寿司ロボットはスーパーマーケットからの増設需要や新規出店に伴う製品需要が堅調に推移している

ものの、寿司業態における入替・増設需要などが想定よりも低調に推移しております。一方、ご飯盛付けロボット（Fuwarica）はレストラン・食堂業態を中心に大手チェーン店への入替需要や新規顧客の増加が進んでおり、国内売上高は想定を上回る見込みとなりました。

海外は、インフレや金融引き締め、ウクライナ情勢や中東地域での地政学リスクの長期化などを背景に不透明な状況は継続しているものの、外食・小売業における日系企業の海外進出の増加、人手不足の深刻化や人件費の高騰による省人化の動きの継続、日本食の普及拡大により、製品需要は拡大しております。地域別では、北米における日本食の普及や日系企業の進出が加速し、機械化や省人化の動きも高い水準で推移しており、製品需要が想定よりも拡大しているほか、欧州においてもウクライナ情勢によるエネルギー価格の高騰や供給懸念に伴う事業者への影響は継続しているものの、前期より取り組んでいる現地事業者への需要の掘り起こし等の効果により、製品需要の回復が進んでおり、海外売上高も想定を上回る見込みとなりました。

このような動向を踏まえ、当第2四半期連結累計期間の売上高は前回予想を上回る見通しとなりました。

当第2四半期連結累計期間の売上高予想数値の国内・海外別内訳

	前回発表予想		今回発表予想		増減額	増減率
	金額（百万円）	構成比（%）	金額（百万円）	構成比（%）	金額（百万円）	（%）
国内	5,055	66.6	5,160	65.7	105	2.1
海外	2,540	33.4	2,690	34.3	150	5.9
合計	7,595	100.0	7,850	100.0	255	3.4

利益面につきましては、国内外における製品および部品の価格改定の効果は概ね順調に推移しているほか、売上高は前回予想を上回る見通しとなったことにより、売上総利益が想定を上回る見込みとなりました。加えて、事業拡大に伴う人員採用の遅れや、今後の新製品や新事業に係る研究開発の遅れなどによる投資コストが一部下期に繰り延べられることにより販売費及び一般管理費が減少する見込みとなりました。その結果、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益は前回予想を上回る見込みとなりました。

なお、2025年3月期通期の業績につきましては、国内外における需要環境が不透明な状況や、前述のコストが下期に繰り延べられる見込みであることなどから、前回予想を据え置いております。

以上

（注）上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は上記予想数値と異なる場合があります。